

平成 28 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業の受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成 21 年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、平成 28 年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 受賞者及び受賞論文について

(1) 岩手県知事賞（2 件）：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	よねはら 米原 善成	東京大学大気海洋研究所	滑空する海鳥の飛行経路から海上風を推定する
一般の部	かけひ 寛 茂穂	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所	秋季におけるワカメ養殖場への栄養塩供給予測

(2) 特別賞（2 件）：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
一般の部	きん 金 天海	岩手大学理工学部	アワビ・ウニ漁のための自律安定船舶の開発
一般の部	にしべ 西部 裕一郎	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター	東北地方太平洋沖地震による津波が大槌湾の動物プランクトン群集に与えた影響

2 表彰式について

- (1) 日時 平成 28 年 12 月 20 日(火) 16:30~16:50
- (2) 場所 岩手大学理工学部 銀河ホール

3 岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業について

(1) 対象研究

ア 海洋生物、海洋環境など、広く海洋に関するものであること。又は、水産資源の増養殖や加工、漁業経営など、広く水産振興に関するものであること。

イ 岩手県三陸海域（内水面及び陸域を含む。）を実地調査したものであること、又は同海域における水産業復興に資するものであること。

(2) 応募資格

日本国内の大学等に在学するもの又は研究機関に所属する若手研究者。

(3) 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会において、論文及び口頭発表の審査により受賞者を決定。

(4) 応募状況

学生の部 2 名、一般の部 5 名 計 7 名

【担当 科学技術担当 佐山 内線 5253】

(参考資料)

平成 28 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業 受賞者一覧

1 岩手県知事賞 (2件)

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
米原 善成	東京大学大気海洋研究所	滑空する海鳥の飛行経路から海上風を推定する
【論文要旨】 海表面の風は大気海洋相互作用を理解する上で重要な要素の一つだが、気象衛星や海上ブイなどの観測手法では、まだ時空間的な観測空白域がある。本研究では、滑空する海鳥の飛行速度が風に影響されることを利用し、オオミズナギドリの飛行経路から詳細なスケールで高精度の海上風を推定した。推定した海上風データは、従来の観測手法での観測空白域を補完できると考えられ、海鳥が海上風の新しい観測基盤になると期待される。		

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
筧 茂穂	国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北水産研究所	秋季におけるワカメ養殖場への栄養塩供給予測
【論文要旨】 岩手県沿岸定線観測による水温、塩分、栄養塩濃度のデータを使用した鉛直一次元モデルにより、秋季におけるワカメ養殖場への栄養塩供給を 50 日先まで日単位で予測した。2015 年の 9 月下旬に取得されたデータから予測した栄養塩濃度は、10 月下旬までは低く本養成には不適切で、11 月上旬に本養成可能な濃度となると予測された。船越湾における毎週の栄養塩観測では 11 月上旬に栄養塩が供給されており、モデルの予測が的中した。		

2 特別賞 (2件)

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
金 天海	岩手大学理工学部	アワビ・ウニ漁のための自律安定船舶の開発
【論文要旨】 アワビやウニを収穫する漁業従事者の作業軽減と作業効率の向上を目的とした自律安定船舶を開発した。開発した船は水底画像処理により自己位置を調節できる。船体の挙動をモデル化するために身体バブリング、FAD 学習、及び力学系学習木を用いたフレームワークを提案した。実験の結果、船体挙動が精度良く推定できることが分かった他、自律安定化制御により、船体が外乱を受けた際にも安定的にもとの位置を維持できることが分かった。		

氏名	所属	論文タイトル
西部 裕一郎	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター	東北地方太平洋沖地震による津波が大槌湾の動物プランクトン群集に与えた影響
【論文要旨】 東北地方太平洋沖地震による津波が沿岸域の低次生態系に与えた影響を明らかにするために、大槌湾における動物プランクトンの動態を 2011 年 5 月から 2013 年 5 月にかけて調査した。動物プランクトンの個体密度と種組成は津波後の 2 年間同様の季節変化を繰り返し、津波以前と比較しても大きな違いは認められなかった。そのため、大槌湾では動物プランクトンへの津波の影響は軽微であったか、あるいは速やかに攪乱から回復したと考えられた。		